着 任 挨 拶

山 根 裕 子　日本学術振興会RPD特別研究員

今年度より日本学術振興会RPD特別研究員として『地域研究を軸とした地域密着型の新しいアフリカ農業開発支援の手法創出』という実践型の地域研究をケニアのビクトリア湖岸地域に点在する稲作地域を対象に開始します。この地域では2010年から現地の稲作の実態を明らかにする目的の研究を継続してきました。この研究では、対象地域の農業と農村社会の実態を把握したうえで、実態に即した適正技術を検討し、導入を図ることを目的としています。アフリカでは農業支援の多くが独特の地域社会や農業の特性に合わず根付いてこなかったと言われており、この研究を通じアフリカの農村と農学を結ぶ方法を考えます。

略歴　2005年京都大学大学院農学研究科博士課程後期課程修了、京都大学大学院農学研究科研修員、名古屋大学農学国際教育協力研究センター研究機関研究員、同国内客員研究員、三重大学非常勤講師、愛知淑徳大学非常勤講師等を経て、2016年4月より現職。

ダニエル・メンゲ　研究員

私は、2016年3月に名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程を修了し、一時帰国後、同年5月から研究員としてICCAEで研究を続けることになりました。私は、これまで、陸稲ネリカ根系の乾燥ストレスに対する反応の品種間差異および施肥管理との相互作用に関する研究に取り組み、栽培環境に適した品種の選抜と栽培管理の組み合わせにより、天水畑条件下における陸稲の生産性向上が可能であることを明らかにしてきました。今後は、これまでの研究で見出した陸稲ネリカ品種が持つ耐旱性に関わる根系形質の機能をアフリカの栽培現場において実証していきたいと考えています。また、新しい実験技術を身につけ、環境ストレスに対する根の生育反応と養分吸収との関係解明にも取り組むつもりです。

略歴　1985年生まれ。2008年12月ケニヤッタ大学理学部卒業、2010年4月文部科学省奨学金留学生として来日、2013年3月名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程前期課程修了、2016年3月同大学院生命農学研究科より博士 (農学) を取得し、2016年5月より現職。

菊田真由実　研究員

2016年4月より、研究員として採用され、JST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）「テーラードメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」に参加させていただいています。学部、修士・博士課程では、インドネシアやケニアにおいて低土壌水分条件下でのイネの生産性向上について、主に栽培管理の点に着目し、研究に取り組んできました。これまでの研究経験を活かし、今後は、ケニアに滞在し、栽培試験および現地調査を行う予定です。現地の関係者や研究者らとともに、ケニアのコメの生産量拡大に貢献できるよう、研究活動を行っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

略歴　2011年に高知大学農学部農学科を卒業。2013年に高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程を修了。2016年3月に名古屋大学大学院生命農学研究科にて博士号 (農学) を取得後、2016年4月より現職。

平成28年度JICA課題別研修「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」実施について

本研修は、昨年度より第2フェーズ（3年間）として実施しています。2016年は、6月29日～8月5日、サブサハラアフリカ諸国の12ヶ国より15名を受け入れる予定です。前半のJICA中部および名古屋大学におけるコア研修では、稲作に関わる基礎的な知識や技術、PCM手法、日本における稲作振興のための技術開発と政策の関係、名古屋大学フィールド科学教育研究センター東郷フィールドでの圃場の見学、稲作の機械化に関する講義と実習、愛知県新城市の四谷千枚田の見学等を予定しています。また、後半の個別研修では、例年同様JISNAS会員大学にご協力いただき、受入の先生方から指導を受けながら専門性を高めた上で、最後にJICA筑波において、研究を効果的に進めるためのリサーチプラン立案に関するワークショップとリサーチプラン発表会を持ち、JICA筑波所管の他の稲作研修参加者も交えて議論するプログラムを企画しています。　（江原　宏）

参加予定国：ブルンジ、コンゴ民主共和国、エチオピア、ガーナ、ケニア、モザンビーク、ナイジェリア、スーダン、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ、ザンビア